

平成26年度 中津市立沖代小学校 学校プラン

学校教育目標 (児童像・学校像など)		(学校教育目標) 楽しい学校・やり抜く子ども		(めざす教師像) 学び続ける教職員集団					
本年度の重点(チャレンジ目標)				4～8月 第1回自己評価		～12月 第2回自己評価		～2月 第3回自己評価	
重点目標	達成指標	重点的取組	取組指標	取組状況	評価・改善	取組状況	評価・改善	重点目標・達成指標の評価	
学力の向上	○单元ごとのテストにおいて、60～65%以下の子どもたちを、各学年とも半減させる。	○楽しく、わかる授業の構想とその実現(日常化)。	①学年内の互見授業を学期に1回ずつ実施。低・中・高の全体研を1回ずつ実施。校長または、外部講師による授業力向上研修を年5回持つ。	学年内の互見授業・・・4年3クラス(国語)、2年4クラス(算数)で実施 授業力向上研修・・・2回実施	新規・・・板書に「課題」と「考え」「まとめ」を位置づける(定着)・学習規律の見直し	全てのクラスで、「課題」「考え」「まとめ」が板書に位置付くようになった。	学習課題の質について共通理解を図ること。学テの分析を活かす取組 学習規律	学力の向上に向けて授業改善の取り組みを進めてきた。何をやるのか何を考えればいいのか板書にしっかりと位置付いた授業が実施できるようになってきた。沖小タイムは暗唱やフリートークに子どもの意欲が見える。達成指標の60以下の半減には至っていないが、中津市の学力調査ではどの学年も目標値を達成することができた。取り組みの成果が現れてきている。子どもの自主性を育む家庭学習についての指針は2月末までに打ち出すことができていない。	
		○沖小タイムの時間をスキルタイムの時間として位置づける。	②週4日、13:55～14:05の10分間を、計算・漢字学習にあて、基礎基本の定着を図っていく。	漢字は成果有り(6年) 底上げ難しい個人差が大きく時間内にできない子	プロジェクトチームを組織し内容と持ち方・評価について検討。	子どもの意欲と成果が見える沖小タイムを各学年で工夫。	暗唱やフリートークに子どもの意欲が見える。ドリル学習とあわせて継続。		
		○家庭学習の時間を保護者に記入してもらう。家庭での音読は保護者に評価していただく。	③全員提出	音読成果有り(低学年) 家庭でチェックは学年により三分の二～100%。	子どもの自主性を育む家庭学習のあり方を検討する。学力向上委員会にて検討。	HPに学校プラン、学力調査の結果のお知らせ。家庭学習は検討中。	子どもの自主性を育む家庭学習のあり方についての指針を打ち出すこと。		
笑顔で活動できる学 校・クラス	○生活アンケートで笑顔で活動できる学校(クラス)になっていると答える子どもが100%になることをめざす。	○挨拶運動を行う。子どもを誉める時間と場を設ける。	④あいさつ一日50人。一人の子どもをクラス全員や縦割り班全員で誉めることができる。	挨拶はよくなっている。誉める時間と場は定着。	地域へ挨拶の輪を広げていく手立と評価の工夫。	学校便りで挨拶運動を取り上げ地域に協力依頼	地域で挨拶できる子を全校に紹介する。	児童会の挨拶運動や集会での挨拶できるこの紹介、教職員の各学級での取り組みを行ってきたが、子どものアンケートの数字は横ばい状態である。子どもの側からの挨拶運動に対する盛り上がりが必要。ほめて自己肯定感を高めていく取り組みは全クラスで行われ縦割り掃除でも行ってきた。ほめられると答える子どもや学校が楽しいと感じる子どもが増えている。	
		○子どものトラブルは、学年・チームとして対応解決していく。	⑤毎週、月曜日に学年情報交換を行い、子どもの様子を確認し、今後の取り組みを共通理解する。	学年内の情報交換の定例化が定着・チームとしての対応も定着。	重点的取り組みを「子ども同士が誉め合う時間と場の充実」に変更する。	全クラスで実施。掃除の縦割り班でも実施。	小さなトラブルが減ってきた。強い言葉が減った。		
		○人権教育を柱とし、心の教育を全教科・全領域ですすめていく。	⑥人権教育の視点での教育課程の見直し。月一回の児童朝会の中で人権の大切さを話題に取り上げる	重点的取組も指標も短期の結果が見えにくい。実施も時間的に難しい。	重点的取組を「清掃活動」に変更、開始時間で始め時間いっぱい活動をめざす。	反省会を持った。頑張っている子を輪番で言ってもらってみんなで誉めた。	ほとんどの班が時間いっぱい掃除を続けられるようになる。質を高めた。		
体力作り	○全国運動能力テストにおいて、すべての項目で、全国平均を上回るようにする。	○休み時間の遊びを外遊びを中心に充実させる。	⑦晴れの日には外に出て思いっきり遊べるような仕掛けを教師や委員会から提案する。	教室に残る子どもが居なくなった。	空きスペースに「遊びの施設」を新しくもつ。	縄跳びジャンプ板10台増設。バトン投げ新設。	外で遊ぶ子どもと教師が増える。貸し出しボールの種類を増やす。	本校では、体育専科教師を中心にしてTTで体育の授業を行っている。子どもにつけたい力を明確にし、目当ての持たせ方、指示の仕方の打ち合わせを行うことで、子どもたちは自己の動きについての目当てをしっかりと持って活き活きと活動している。遅刻する子どもが限られてきた。	
		○体育専科教師を中心に系統的な運動ができるようにする。	⑧身体諸機能の発達にムラがないよう年間指導計画をこまめに見直し、充実した体育の授業ができるようにする。	できている。個別指導ができた。	めあての持たせ方や指示の仕方の工夫。つけたい力の明確化と共通理解。	運動会・跳び箱・寒稽古・持久走大会へ向けて専科と担任が連携して指導。	子どもがめあてを持ちTT体制で指導ができた。継続。		
		○生活習慣の確立を図るため、家庭との連携を強化する。	⑨早寝・早起き・朝ご飯を全学年に徹底するように通信・懇談会等で啓発していく。	家庭に協力を求めてきた。朝から疲れている子。	家庭との連携の継続。新規・・・「遅刻0運動」	遅刻者への連絡は毎朝実施	遅刻者はほとんどいなくなる。継続		

平成26年度 全国学力・学習状況調査(対象小6・中3)		
教科等	結果	特徴 (○成果 ●課題)
国語A	◎	平均正答率は全国を上回った。話す・聞く、書く、読む、言語の全ての領域で県・全国を上回る結果となった。
国語B	◎	○言語についての知識や話す・聞く領域の活用の力が特によく身につけている。単元を貫く言語活動のある授業の成果があらわれている。
算数A 数学A	◎	○数と計算や量と測定の知識・技能は全国平均を上回っている。 ●図形がやや低く、数量関係は全国の正答率よりも低い。
算数B 数学B	○	○観点別では、知識・理解は全国平均より上回った。 ●量と測定・数量関係が全国よりやや低い。 ●数学的思考力は全国平均を下回った。
質問紙		○自尊感情が高く、教師とよい関係が保たれている。また、予習・復習が全国より20p高い。

平成26年度 大分県学力定着状況調査(対象小5・中2)		
教科等	結果	特徴 (○成果 ●課題)
国語	知識	◎ ○県の平均を、正答率・達成率いずれも上回っており、72%の子どもが目標値に到達している。○問題別に見ると、「言葉の学習」や「漢字を書く」などの言語についての知識・理解・技能の力がよく身につけている。
	活用	◎ ●一方、物語や説明文の内容を読み取る力が他に比べるとやや弱い。
算数	知識	○ ○問題別では「いろいろな形」や「分数」、領域では「図形」、観点別では「数量や図形についてのぎのう」の偏差値が特に高かった。●目標値に達しなかった問題は、「わり算」「面積」「計算のきまり・変わり方調べ」であった。●領域では、「量と測定」の正答率が目標値に到達しなかった。
	活用	○
理科	知識	△ ●目標値に達しなかった問題で特に偏差値が低いのが、「一年間の動物のようす」「電気のはたらき」、次いで「物の体積と力」「物のあたたまり方」「動物のからだのつくりと運動」であった。●領域では「物質・エネルギー」「生命・地球」どちらも目標値に届いていない。●観点別では、「観察・実験の技能」の正答率が目標値よりやや低い。
	活用	△
英語(中のみ)	知識	
	活用	
質問紙		○生活習慣については全国や県のデータと比べるとややよい結果が出ている。 ●規範意識や思いを伝える力が全国に比べるとやや低い。

平成26年度の特徴的な教育活動	
学力面	○学び合う姿のある授業をめざす。互見授業とあわせて、教師の授業力向上研修を実施。
生活面	○「子どもをほめる」場と時間を設定で自己肯定感を高める。挨拶の輪を地域へ広げる取り組み。縦割り班活動。
体力・健康面	○体育専科と担任のTT授業。思いっきり外で遊べる仕掛け。

次年度に向けた課題(重点目標設定・指標の設定 取組内容 組織力向上など)	
<p>学び合うことができる集団づくりに力を入れていきたい。このためには、学級活動・児童会集会活動などの特別活動の充実が必要である。自分達の学校生活をよりよいものにしていく活動を教師が支援していく。挨拶運動もこの中に取り込んでいく。その土台の上に学力向上と体力向上の重点目標を設定したい。学力については、読む・書く・計算などの基礎的基本的な学力はもちろんのこと、来年度は活用力が身につく授業改善を図っていきたい。思考・判断・表現力が身につく授業にシフトしていく。具体的には問題解決的な学習に力を入れていくことである。また、子どもの自主性を伸ばす家庭学習のあり方についても指針を示し、検証していきたい。達成度合いの検証は、子どものアンケート調査や中津市の学力調査で数値目標を上げて行っていきたい。体力向上については、体育の授業の子どもの姿や、運動に対する意識調査から検証していきたい。</p>	